

# 令和5年度 杉並区立松ノ木中学校 教育調査アンケートの分析と考察

杉並区立松ノ木中学校  
学校運営協議会

## 1 アンケート調査の考察にあたって

学校運営協議会は、杉並区教育調査と学校独自調査をもとに松ノ木中学校の教育活動の大きな傾向を明らかにし、次年度の教育課程編成及び学校運営の参考資料とされることを目指して分析と考察を行った。

① 回答の選択肢は次のようになっている。

a: とてもそう思う      b: ややそう思う      c: どちらともいえない  
d: あまりそう思わない      e: まったく思わない      f: わからない

② 肯定率と否肯定率、中間率は次のように算出した。

肯定率 = (「とてもそう思う」 + 「ややそう思う」) ÷ 回収数 × 100

否肯定率 = (「あまりそう思わない」 + 「まったく思わない」) ÷ 回収数 × 100

中間率 = 「どちらともいえない」 ÷ 回収数 × 100

③ 調査はフォームズを使用して行いました。

④ 教育調査アンケートの回収数と回収率は次の通りです。

調査対象	在籍数	回収数	令和5年度 回収率(%)	令和4年度 回収率(%)
生徒	244	183	75.0	87.8
保護者	244	105	43.0	97.9
教員	16	15	93.8	100
合計	504	303	60.1	93.0

⑤ 考察の視点は昨年度と同様に、

70%以上の肯定率を「満足できる状況」

50%以下の肯定率を「課題のある状況」とした。

※否肯定率が20%以上を「課題のある状況」とした。

※前年度の結果と比較して10%以上の変動のある項目についても摘出した。

## 2 生徒

アンケートの回収率は75%であった。

調査13項目中の5項目は昨年度に引き続き70%以上の肯定率を示している（その中で昨年度は4項目が80%以上の肯定率であったが今年度は80%以上の肯定率の項目はなかった）。

### ◇肯定率70%以上（「満足できる状況」）の項目は次の通り

- (3)学校では、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる
- (6)先生は、学級活動や生徒会活動、学校行事に進んで取り組めるように教えてくれている
- (7)先生は、あいさつの励行や決まりを身に付け、学校生活が向上するよう教えてくれている
- (10)先生は学校生活が充実し、楽しめるよう教えてくれている
- (14)感染症に対する予防対策ができています

### ◆肯定率が50%以下（「課題のある状況」）の項目は次の通り

- (2)特別支援学級や自校外の障害のある同じ年くらいの子ともと交流する機会がある
- ・昨年度47%が今年度37%に下がっている。

### ◆前年度の結果と比較して10%以上の変動のあった(下がった)項目は次の通り

- (1)友達や先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に相談できる大人（先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域の人など）がいる
- (2)特別支援学級や自校外の障害のある同じ年くらいの子ともと交流する機会がある
- (4)学校では、授業において図書館等を活用している

※昨年度は生徒の教育調査項目が29（2項目は記述式）項目であったが、今年度は杉並区共通項目の調査が未実施であった。昨年度と同様の質問項目は、松ノ木中学校独自調査項目の15項目（2項目は記述式）のみであった。調査項目が昨年度と比べ少なかったため結果からの考察も限られた内容となっている。

※地震や火事、危険予測などの安全指導について、先生方はていねいに指導している。

※調査結果より、生徒たちの多くは学校生活において学習面・生活面ともに前向きに取り組んでいる様子をうかがうことができる。

※学習面での質問項目では、先生方は調べ学習など進んで取り組むように指導しているが、一方で図書館等の活用の評価が10%下がっている。ICT機器が積極的に使われるようになったからとも推察されるが、生徒の調査項目の内容からは読み取ることができない。

※生活面では学校生活が充実して楽しいと答えている生徒が昨年度に引き続き高い結果となっている。あいさつやきまりを守るなど基本的な生活習慣なども子供たちは身に付けている。これらの内容については、自由記述の回答からも読み取ることができる。

※学校行事等先生方の取組が子供たちからも評価されている。

※昨年度の調査結果で、「授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる」の項目が、肯定率が49.5%と低くなっていた。これに対して、旧態依然とした教師主導型の指導方法が原因とも考えられるので、校長先生、副校長先生の定期的な授業観察による指導や校内研修会等を行うことで指導スキルを上げるような工夫も必要であると伝えたが、その後の改善については結果より読み取ることができていないが、自由記述らんで授業について否定的なコメントもいくつか見られた。引き続き指導スキルの向上に努めていただきたい。

※「先生は、いじめや仲間はずれなどがなく。相手の立場を考え、互いに協力し合う関係が作れるよう教えてくれている」(9)の項目では、肯定率が60.7%となっている。一方で、否肯定率が14.6%、中間率が24.7%である。一方で同じ質問の教員の調査結果の肯定率では100%と乖離が見られる。このことは昨年度も同様であった。子供たちからも「相談できる相手や場所」についての自由意見が出されている。難しいことではあるが、日頃からの声掛け、いじめ防止アンケートなど目に見える指導を積極的に行い、生徒たちの「安心・安全」を常に第一に考えた学校運営を教職員が一丸となって進めていただきたい。

### 3 保護者

アンケートの回収率が昨年度の98%に比べ43%と非常に低い結果となった。これは調査の回収方法にも原因があると考えられる。しかしながら、学校としても回収率を上げる方法について独自に改善していくことが求められる。

昨年度の回収率を見ると、本校の保護者の学校教育に対する期待とその意識は高い。ぜひ松ノ木中学校の保護者の教育に対する期待や思いを引き出すようにしていただきたい。

教育調査の結果を見ると、14項目中の70%以上の肯定率の項目はなく、独自調査14項目中の2項目が70%の肯定率を示している。

◇肯定率70%以上（「満足できる状況」）の項目は次の通り

- (27) 教室や校庭などの清掃、整理整頓など環境整備が行き届いている
- (29) 学校は学級活動や生徒会活動、学校行事に進んで取り組んでいる

△肯定率60~70%の項目は次の通り

- (1) 子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、者会を、自分たちで代えるための知識や考え方が身に付いている
- (6) 子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している
- (10) 学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている
- (20) 学校は、様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもたちの成長を支えてくれていると感じている
- (31) 奉仕活動など様々な体験活動を保護者や地域、関係諸機関と連携しながらすすめている

◆肯定率が50%以下（「課題のある状況」）の項目は次の通り

- (3)子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる
- (4)学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している
- (5)連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている
- (7)学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている
- (11)学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている
- (12)子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている
- (13)学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている
- (21)学校は様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもたちの成長を支えてくれていると感じる
- (22)学校は障害など、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている
- (24)義務教育9年間を通した一貫性のある教育は、子どもたちの成長や発達により効果をもたらしている
- (28)図書室等の特別教室を活用している

◆前年度の結果と比較して10%以上の変動のあった(下がった)項目は次の通り

- (5)連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている
- (12)子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている
- (14)子どもは学校生活をたのしんでいる
- (24)義務教育9年間を通した一貫性のある教育は、子どもたちの成長や発達により効果をもたらしている
- (28)図書室等の特別教室を活用している
- (30)学校はあいさつの励行や決まりを身に付け、学校生活が向上するよう取り組んでいる
- (31)奉仕活動など様々な体験活動を保護者や地域、関係諸機関と連携しながら進めている
- (32)必要に応じて保護者の意見や要望を取り入れている

◆否肯定率が20%以上の回答があった項目は次の通り

- (3)子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる
- (4)学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している
- (7)学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択

的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている  
(8)学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある  
(13)学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている

◆**評定不能率について、15%以上の【回答不能】の回答があった項目は次の通り**

- (5)連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている
- (13)学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている
- (22)学校は障害など、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている
- (28)図書室等の特別教室を活用している

※教育調査の回収率を上げるためにも杉並区や学校での取り組みを一層理解していただく必要がある。保護者や地域に対して情報発信を工夫して行うよう改善が必要である。

※「学校の教室や校舎、敷地内」(7)の質問では、保護者が学校に足を運び実際に見る機会が多くすることで評定不能率を下げるようにしていく。

※「特別支援教育」(13)の質問については、回答することが難しく評定不能率が29.5%と高い数値を示している。

※(6)の「子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している」という項目での質問内容に回答することに難しい部分があるが、タブレットをはじめとしたICT機器も充実期に入り、子供たちはツールを適切に使いこなすスキルが定着してきている。

※質問内容が多く回答しにくかったり、質問に「充分・・・」という言葉があったり質問内容を理解する場面で保護者によって差が出てしまったと推察される。質問は短い言葉で誰にでも分かりやすい内容が求められる。

#### 4 教職員

教員の調査結果はほとんどの項目で、70%以上と高い結果が出ている。

◆昨年度は、24 調査項目中 23 項目の肯定率が 60%以上、その中で 20 項目が 70%以上であった。

◆今年度は、33 項目中 19 項目の肯定率が 60%以上、その中で 14 項目が 70%以上であった。また、肯定率が 50%以下の課題のある項目は、昨年度が 1 項目であったのに対し今年度は 9 項目と多い結果となった。

※調査の母体数が 15 名と少ないため、結果の数字をもとに考察を進めていくことが適切であるか疑問であるが、数値を基に考察を進めていくこととした。

◇肯定率 70%以上（「満足できる状況」）の項目は次の通り

- (1)杉並区いじめ防止対策推進基本方針に則りいじめの未然防止、早期発見、解決に向けた取り組みに迅速に対応できる組織をつくっている

- (2) 施設・設備の点検を定期的に行い、安全管理に努めている
- (3) 経験的・探究的な活動を組織し、生徒の学習課題に応じた指導をしている
- (4) 学級活動や生徒会活動・学校行事が活発に行われるよう指導している
- (5) あいさつやきまりを守り、基本的な生活習慣を身につけさせ、学校生活が向上するよう指導している
- (6) 生徒に将来の生き方を考えさせる機会を多く設け、勤労観・職業観を育てる指導をしている
- (7) 奉仕活動などの様々な体験活動を保護者や地域、関係諸機関と連携しながら進めている
- (8) 必要に応じて保護者の意見や要望を取り入れている
- (9) 食に関する指導を推進している
- (16) 授業の中で出た意見や考えを、児童・生徒が自分の学びに生かせるようにしている
- (17) 授業では、児童・生徒が、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学べるようにしている
- (20) 学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている
- (25) タイムマネジメントを意識して勤務できている
- (29) スクール・サポート・スタッフの活用が負担軽減につながっている

#### △肯定率 60～70%の項目は次の通り

- (10) 授業では、普段の生活のことや社会での問題・話題になっていることを材料に学べるようにしている
- (13) 授業では、児童・生徒が、挑戦や失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組めるようにしている
- (18) 学級の全体に関わることは、児童・生徒が自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめながら決められるようにしている
- (19) 学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている
- (27) 誇りややりがいをもって仕事を行うことができている

#### ◆肯定率が 50%以下（「課題のある状況」）の項目は次の通り

- (11) 授業では、「授業を進めるのは、先生ではなく、児童・生徒である」と児童・生徒が感じられるようにしている
- (12) 授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている
- (14) 授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている
- (21) 児童・生徒が、自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している
- (22) 連携する小・中学校による小中一貫教育（各教科等において、義務教育 9 年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている

- (24)子どもと向き合う時間が確保できている
- (26)勤務する学校は、働き方改革に意識的に取り組んでいる
- (28)ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている
- (31)学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫を行っている

※次の3つの質問項目は、前年度より結果が大幅に下がったり、低い評価であったりする項目である。

- ・質問項目(12)「授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている」は、昨年度 73.3%であったが今年度は 35.7%に下がっている。「どちらともいえない」の中間率が 60%と多いことが下がった原因である。
  - ・質問項目(14)「授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている」も同様に中間率が多く 28.6%と低い結果である。
  - ・質問項目(31)「学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫を行っている」も同様に中間率が多く 26.7%と低い結果である。
- ◆質問内容を理解する場面で教員によって差が出てしまったと推察される。このことは保護者の考察でも同様のことを述べている。分かりやすく短い言葉での質問内容が求められる。

#### [考察]

※今年度の調査結果がで昨年度のもの大きく違い下がってしまった原因に、回収率の低さがあげられる。中でも保護者からの回収率が昨年度は約 98%と高い数値であったのに対し、今年度は1/2以下の 43%であった。また生徒の回収率も同様に 88%から 75%と下がっている。調査方法が変更となったことも原因として考えられるが、次年度に向け回収率を上げる対策を検討していくことが課題である。

※生徒の調査項目に昨年度と同様の杉並区共通項目を行うことで、生徒からはより高い評価が得られると推察される。来年度は、保護者、教員と同様に杉並区の共通評価項目を実施する必要がある。

※生徒の調査項目の学校独自項目の中に次年度は新しく、①生徒の自尊感情・自己肯定感に関する質問、②学習活動、③学校行事、④キャリア教育、⑤家庭学習など教師主導の質問ではなく、生徒の主体的な取組を評価できる項目を入れることも必要である。

※生徒アンケートの結果から 13 項目中 11 の項目で 70%には届かないが、60%以上の肯定的な結果を読み取ることができている。今年度の生徒による授業評価アンケートの結果を教育課程（学習指導や特別活動、特別の教科道徳、総合的な学習の時間）に生かすようにしてほしい。

※学習面については、前述もしてあるが子供たち一人一人の学力向上のために先生方も授業改善を進めていくことに努めてほしい。

※保護者アンケートでは、昨年度と今年度の肯定率を比較すると大きく下がっている。このことの原因のとして、で「どちらともいえない(3)」と回答した割合が多いこと、回答不能の割合が昨年度より増えたことが考えられる。日頃より学校側から保護者や生徒に向けて様々な情報を発信し、学校で行っている取り組みなどをいろいろな方法で情報提供をしていく必要がある。学校ホームページの活用だけでなくスマートフォン等を活用した情報発信なども一つの方法として考えていただきたい。

※保護者アンケートの結果より奉仕活動やあいさつなど基本的な生活習慣の質問項目の評価が高いことから校長先生をはじめとした先生方の日々の努力を伺うことができる。

※教員アンケートでは今日的な教育課題に関係する項目(11)、(12)、(14)、(21)について肯定的な評価が低くなっている。管理職から先生方が行う研修機会を設定しスキルアップを図るようにしてほしい。

※教員の調査項目の中で、「働き方改革」と「ワーク・ライフ・バランスのとれた生活」については評価も低い。また否肯定率も20%と高い結果が出ている。学校組織として働き方については引き続き検討していく必要がある。

※いじめに関する質問項目では、3者によって結果に差が出ている。生徒の肯定率54%、否肯定率14%に対して、保護者の肯定率51%、否肯定率23%である。また、教員の肯定率92%、否肯定率0%となっている。いじめに関しては情報を共有し周知することが難しいが、否肯定率を減らす取り組みが必要である。また、教員として子供たちへの相談活動などを積極的に行い見えていない部分がないように努めていただきたい。

学校生活については概ね良い結果となっている。多くの子供たちが安心して安全に学校生活を送ることができている。学校生活や学習環境など子供たちを取り巻く様々な環境が、と保護者の協力によって作り上げられていると推察される。

※教育調査アンケートは教員だけでなく、都事務職員や杉並区の職員など全教職員で携わる必要がある。管理職が中心となり組織としての対応を積極的に進めてほしい。チーム学校として、学校運営協議会委員を含めた松ノ木中学校すべての職員で子供たちの教育に携わっていく必要がある。

※アンケート結果を基に、学校運営協議会から学校にお願いすることの一つに「中間率(どちらともいえない)」と「回答不能」の数を減らすよう努力が必要である。このことは、保護者ととも生徒についても同様のことがいえる。

※昨年度も同様のことを考察で伝えたが、松ノ木中学校の教育活動や学習状況について、さらに周知していくことが必要である。学校から生徒や保護者(家庭)・地域への情報発信・提供を例年通りではなく、新たな方法を視野に入れ進め積極的に取り組んでほしい。来年度のアンケート結果が今年度以上に発展するよう努めていただくことを要望します。